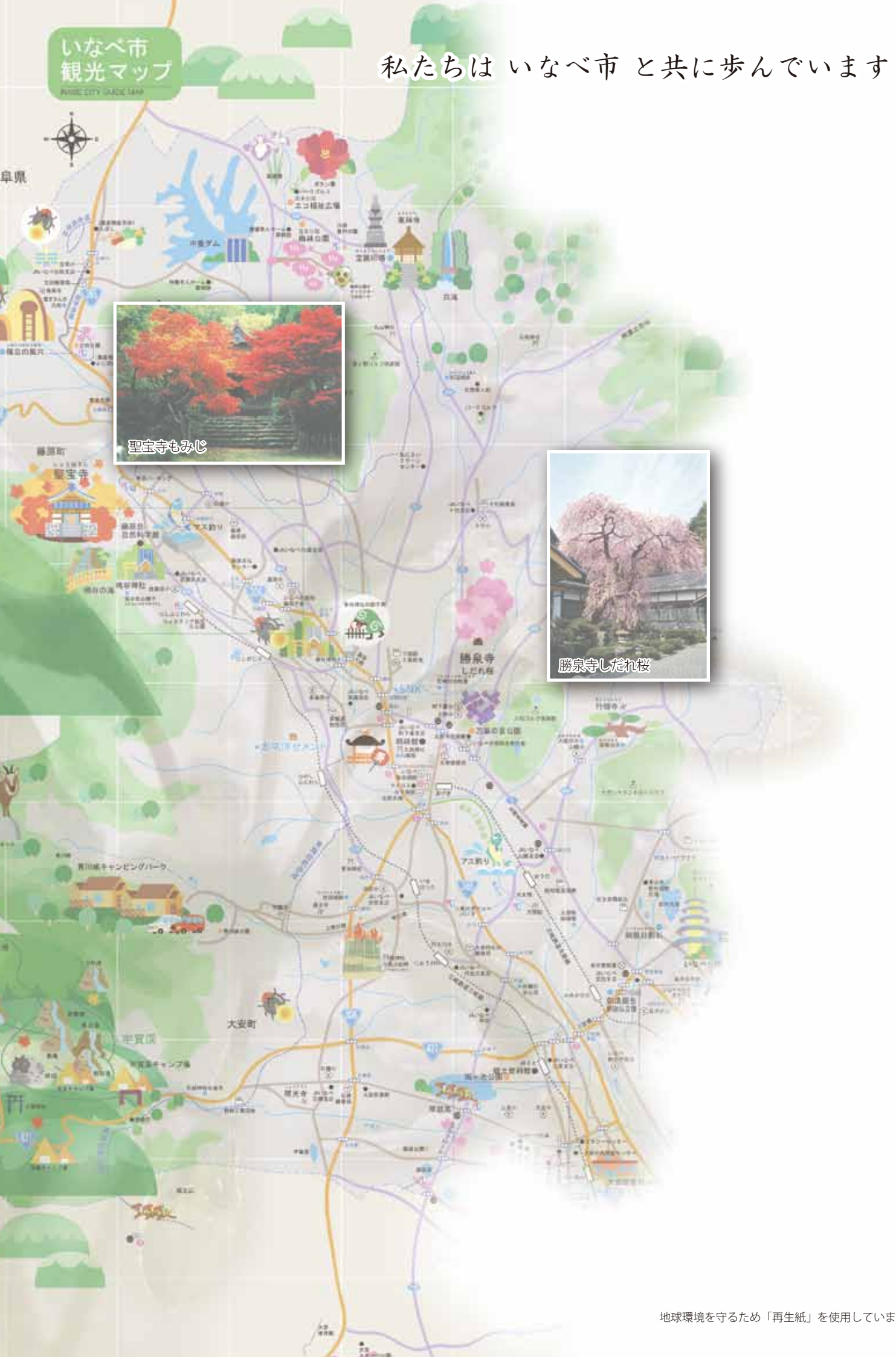




私たちは いなべ市 と共に歩んでいます

安全・環境経営レポート 第15版



エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社

令和 元年 7 月 (平成 30 年度 活動報告)

平成 16 年度活動報告から連続 15 事業年度目の報告

CONTENTS 目次

社長メッセージ ～わたしの環境経営理念～ 1

1 会社プロフィール 2

- ◆ 会社概要、沿革、事業概要、許可・資格等

2 継続的な廃棄物再資源化の企業間協働・連携体制です 4

- ◆ 協働・連携企業紹介と連携体制
- ◆ 北勢工場への廃油等廃棄物搬入企業数等の状況
- ◆ SDGs（エス・ディー・ジーズ）「持続可能な開発目標」を学び実践しよう！

3 廃油・汚泥等の再資源化処理プラント「北勢工場」です 6

- ◆ 北勢工場は第1エリア・第2エリア・阿下喜エリア構成で3エリアを一体運営
- ◆ 廃棄物再資源化処理施設整備の歩み

4 北勢工場搬入廃棄物の再資源化システムと環境貢献評価です 8

- ◆ 北勢工場搬入廃棄物の99.3%を再資源化
- ◆ 太平洋セメント(株)藤原工場との再生処理連携システム
- ◆ 安心・安全・確実な再資源化推進拠点・北勢工場試験分析室

5 廃棄物収集運搬事業部門の再資源化挑戦取組です 12

- ◆ 再資源化廃棄物の収集運搬目標と実績
- ◆ 再資源化廃棄物の収集運搬を支える日常活動

6 北勢工場の環境保全と環境クレームの状況です 14

- ◆ 北勢工場の環境保全の状況
- ◆ 北勢工場への環境クレームの状況

7 安定・事業継続のための「環境経営」向上取組です 16

- ◆ 「環境 & 企業経営」、「ワーク & ライフ」を二つの同軸理念で企業活動を展開
- ◆ ISO14001「環境方針」と推進体制
- ◆ ISO14001「環境目標」と活動報告
- ◆ 安定・事業継続する企業活動のための働き方（ワーク・ライフ・バランス等）を考える

8 環境マネジメントシステムと専門組織の両輪による「安全・環境保全」取組です 19

- ◆ 環境マネジメントシステム活用教育・訓練等
- ◆ 会社専門組織での「安全・環境保全」取組

9 社会貢献活動の取組状況です 21

10 環境コミュニケーションを大切に考えます 22

11 第三者コメント 24

その他 25

- ◆ 会社（統括本部・北勢工場）への案内図、いなべ市観光マップ

報告に当たっての基本的要件

対象組織	会社組織全体を対象として記載。この他、中核事業である廃棄物の再資源化に協働・連携する企業間の関係についても記載。
対象期間	報告対象期間は、平成30年4月～平成31年3月（直近事業年度）を基本とし記載。この他、事業経過、事業実績、今後の計画等についても積極的に記載。次回の報告（第16版）は、2020年7月を予定。
対象分野	報告の基軸は環境的側面について記載。この他、社会貢献、労働安全衛生、ワーク・ライフ・バランス、SDGs等、企業活動に求められる社会的分野についても記載。事業の性格上「安全」と「環境経営」を一体として捉えることが適切であることから「安全・環境経営レポート」として作成。

わたしの環境経営理念

社長メッセージ

エス・エヌ・ケー・テクノ(株)は、廃棄物の安心・安全・確実な処理を基本として、地域社会や顧客のニーズ・信頼に応えられる廃棄物の再資源化に取り組むとともに、自らの環境活動についても継続的に改善する企業活動を展開してまいりました。こうした地道な継続的取組みに対して、平成20年に「循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰」を、平成24年5月には、第10回日本環境経営大賞「環境経営パール大賞」を賜りました。

社長就任以来、受賞に至った「環境経営理念」のもと、廃棄物の再資源化への挑戦と受賞に恥じない企業活動にひたすら取り組んでまいりました。

環境経営の取組は、一定の成果と定着を見ましたが、ますます進展する少子高齢化がもたらす厳しい人材確保に対処できる「ワーク・ライフ・バランス」の定着が不可欠と考えています。

わたし達の「環境経営理念」は、環境と企業経営を対立する軸でなく、同軸で捉えるものです。小規模企業にとって、導入・定着が困難な「ワーク・ライフ・バランス」ですが、今後、環境経営理念と同様に、『「ワーク」・「ライフ」を対立する軸ではなく同軸で捉え、社員一人ひとりの充実したワーク・ライフ・バランスの好循環が、安定・継続する企業活動を創造する。』との二つの同軸理念のもと企業活動を展開します。

また、こうした企業活動を「持続可能な開発目標（SDGs）」にあてはめ開示することを通じ、2030年の自社の姿を考えた環境経営に取り組みます

なお、「環境経営理念」を明確に定め、この理念の具現化に向け、「環境経営行動指針」及び「環境経営重点推進事項」を明示します。



伊藤 祐介

環境経営理念

わたしたちが目指す廃棄物の再資源化事業においては、何よりも、地域社会や顧客の信頼を得ることが大切です。「環境と企業経営は対立する軸でなく、同軸でとらえる環境経営の推進こそが、地域社会や顧客の信頼を得られ、企業活動が進展する。」との理念で企業活動を展開します。

環境経営行動指針

- 1 「廃棄物は大切な資源」であることを、全部門・全従業員で共有し、行動する。
- 2 安定・継続する廃棄物再資源化の推進に向けて行動する。
- 3 地域社会や顧客に信頼され、自らの環境活動を改善する企業として行動する。

環境経営重点推進事項

- ① 再資源化処理困難廃棄物の処理範囲を拡充する。
- ② 安定・継続する廃棄物再資源化の関連企業間協働・連携体制を一層推進する。
- ③ 産業廃棄物中間処理工場のイメージを転換する環境管理を徹底する。
＊整理・整頓され、第一印象から安心・安全が感じられるきれいな工場管理
- ④ ISO14001 認証を継続更新する。
＊全部門・全従業員の参画を重視した安全・環境活動を計画し、実施
- ⑤ 環境報告書（名称：安全・環境経営レポート）を毎年発行する。
＊地域の方々に理解され、全従業員の環境経営行動の指針になる分かり易い親しみのもてる報告書



環境大臣表彰



日本環境経営大賞
「環境経営パール大賞」

1 会社プロフィール

会社概要

社 名 エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社
代 表 者 代表取締役社長 伊藤祐介
所 在 地 統括本部 〒510-0814 三重県四日市市清水町 4 番 45 号
北勢工場 〒511-0417 三重県いなべ市北勢町瀬木松之下 633 番地
(TEL、FAX、URL、E-mail、会社位置案内図は 25 ページ)

設 立 平成 12 年 3 月 1 日
新日本技研(株)から環境事業部門を分社（通算事業実績 43 年超）

事業規模 資本金 3,000 万円
設立直近年度と最近 5 カ年度の決算状況（決算：毎年 4 月 1 日～翌年 3 月 31 日）

区分	決算	13 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
社員数	(人)	30	58	59	60	61	63
売上高	(百万円)	765	1,376	1,365	1,422	1,452	1,527
自己資本比率		26.7%	66.6%	57.2%	61.3%	60.0%	66.6%
流動比率		148.1%	210.8%	175.4%	171.8%	159.7%	184.4%

組 織
社長 — 統括本部 — 総務部 営業・運輸部
— 北勢工場 — 藤原出張所
— 安全管理室

沿革

昭和 48 年 3 月 新日本技研株式会社設立
50 年 2 月 産業廃棄物処理事業部門設置
56 年 10 月 小野田セメント株式会社（現：太平洋セメント(株)）藤原工場内で産業廃棄物再資源化処理を事業化
61 年 3 月 (財)クリーン・ジャパン・センター会長賞受賞（再資源化貢献）
平成 7 年 12 月 北勢工場新設

平成 12 年 3 月 エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社設立（新日本技研(株)から分社）
代表取締役社長 生川好彦 就任
6 月 営業開始
15 年 5 月 北勢工場（第 2 エリア）に中間処理施設（混練）を増設
19 年 7 月 北勢工場事務所棟新築
20 年 10 月 環境大臣表彰受賞（平成 20 年循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰）
21 年 3 月 北勢工場（第 2 エリア）内に危険物第 4 類第 1 石油類となるエマルジョン燃料製造施設を整備
23 年 4 月 北勢工場（第 1 エリア）の粉体廃棄物再資源化設備を充実整備
23 年 8 月 北勢工場 計量証明事業登録（濃度）
24 年 5 月 第 10 回日本環境経営大賞「環境経営パール大賞」受賞
26 年 6 月 ガスクロマトグラフ質量分析装置導入等に伴い北勢工場試験分析室を場内移転拡充整備
27 年 2 月 北勢工場（阿下喜エリア）に混練施設を増設し、難処理汚泥等の再資源化設備を整備
4 月 代表取締役社長 伊藤祐介 就任

事業概要

■産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の中間（再資源化）処理

企業活動から発生する廃油・廃酸・廃アルカリ等下記の廃棄物について、三重県知事の許可を得て、セメント製造時の補助燃料等の製品規格に適合させる安全に配慮した化学的・物理的特性に応じた処理を行い、セメント工場での補助燃料等として供給。

- ◆産 業 廃 棄 物：汚泥・廃油・廃酸・廃アルカリ・廃プラスチック類（石綿含有産廃除く）・ばいじん
- ◆特別管理産業廃棄物：特定有害廃油（燃料化できる 1,4- ジオキサン含有物に限る）・引火性廃油・腐食性廃酸・腐食性廃アルカリ

■産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬

企業活動から発生する下記廃棄物（各自治体で異なります。）について、三重県知事等の許可を得て、セメント原材料として供給する等の再資源化に向けての取組みを強化しながら、安全・適正に収集運搬。

- ◆産 業 廃 棄 物：燃え殻・廃酸・廃アルカリ・木くず・動植物性残さ・金属くず・ガラスくず等・鋳さい・がれき類・汚泥・廃プラスチック類・廃油・ばいじん
〈以上、三重県知事許可可〉
- ◆特別管理産業廃棄物：引火性廃油・腐食性廃酸・腐食性廃アルカリ・特定有害廃油（一部）・特定有害汚泥（一部）・特定有害廃酸（1,4- ジオキサン）・特定有害廃アルカリ（1,4- ジオキサン）
〈以上、三重県知事許可可〉

※ 三重県その他、神奈川県・福井県・岐阜県・愛知県・滋賀県・大阪府・岡山県・福山市について許可取得

■船舶廃油処理事業

いわゆる船舶洗浄水の処理事業です。四日市港で唯一、船舶を特定せず廃油処理事業を行う事業者です。

許可・資格等

- 産業廃棄物処分業許可（三重県知事）
特別管理産業廃棄物処分業許可（三重県知事）
- 産業廃棄物収集運搬業許可（三重県知事他）
特別管理産業廃棄物収集運搬業許可（三重県知事他）
- 船舶廃油処理事業許可（中部運輸局長）

- ◆三重県産業廃棄物税条例の認定「再生施設」（北勢工場）… P 6 参照
- ◆危険物製造所設置許可（桑名市長）… P 7 参照
- ◆計量証明事業登録（北勢工場：濃度）… P 10 参照
- ◆ISO14001 認証取得… P 16 参照

「廃棄物は大切な資源」
安心・安全・確実に処理します



北勢工場搬入廃棄物の再資源化率を99.5%に進展させることができました。ご理解ご協力に感謝申し上げ一層の再資源化取組をお約束します。

取締役 常務

岩田 恭典

優良認定について

平成29年5月22日期限の産業廃棄物処理事業の許可更新にあたり、優良認定業者とされる5つの基準(①実績と遵法性②事業の透明性③環境配慮の取組④電子マニフェスト⑤財務体質の健全性)のうち、②事業の透明性の要件の一つ「事業変更に伴う許可証写のすみやかな公表」が満たされていない事務処理ミスがありました。

平成23年7月に取得した優良認定再取得は次の更新時となりますが、この「安全・環境経営レポート(P22)」に記載の環境コミュニケーション対応の通り、実質的には、この基準を超える積極的情報開示を実施していますので、この取組みを継続・充実するとともに、実施態勢も改善して、信頼される企業活動を展開します。

* 一般貨物自動車運送事業
・ 第一種利用運送事業許可（中部運輸局長）

* 毒物劇物一般販売業登録業者

2 継続的な廃棄物再資源化の企業間協働・連携体制です

挑戦します！

「廃棄物は大切な資源」



持続可能な社会経済活動が求められる今日、廃棄物の再資源化への挑戦を通じまして、排出事業者様が行う持続可能な社会づくり取組のパートナーでありたいと願っています。

創業以来、太平洋セメント(株)藤原工場様とは、様々に協働・連携させていただき「廃棄物は大切な資源」に挑戦しています。

廃棄物排出事業者、廃棄物処理業者、資源化製品利用事業者の三者間の営業取引において、一時の利害や自己の利益のみ追求する経営では、安定・継続する資源化への取組は確立されません。

平成 30 年度においても、お取引先 896 社の北勢工場への搬入廃棄物について、有益な取組が出来ましたことに感謝するとともに、一層の「廃棄物は大切な資源」に取組みます。

今後とも安定・継続する連携をお願いします。

エス・エヌ・ケー・テクノ(株)

代表取締役社長 伊藤 祐介

循環型社会構築へ



持続可能な地球の未来を拓く先導役として、セメント産業が循環型社会構築への貢献を進めます。

エス・エヌ・ケー・テクノ(株)グループ等とも協働・連携して地域社会への貢献とも調和した事業活動を展開しています。

※平成 29 年 4 月、三重県様から、当社藤原工場内に設置されている三重県所有の「脱塩洗灰設備」が、三重県議会議員全員の賛成を得て、無償譲渡されました。

先に、三重県様、いなべ市様、当社の間で締結した「循環型社会の形成の推進に関する協定書」に基づき、三重県市町の焼却灰の資源化推進に対する藤原工場への信頼と期待と受け止め、これに答える決意です。

この協定締結・無償譲渡に至る過程同様に、今後の取組においても、一層の協働・連携をお願いします。

太平洋セメント(株)藤原工場

工場長 平田 賢一



北勢工場 取扱廃棄物 処理の流れ

太平洋セメント(株)藤原工場



99% 超の再資源化

その他

1% 未満の適正処理



新日本技研(株)

関連会社

ウィズ・ネット(株)

社会に貢献できる創意工夫の実行提案が使命です。

既存業種の隙間を埋める技術と創意が必要です。隙間には、危険やお客様の不満が存在します。石油化学コンビナート内のメンテナンス、定期修理等で培った安全管理や処理の技術・経験で社会貢献します。

エス・エヌ・ケー・テクノ(株)北勢工場

エス・エヌ・ケー・テクノ(株)北勢工場への
廃油等廃棄物搬入お取引先 896 社

(平成 30 年度受託処理実績分)

化学工業、石油製品製造業、電気機械器具製造業、情報通信機械器具製造業、繊維工業、鉱業……等幅広い企業からお取引いただいています。

挑戦します！

「お客様の困ったを解決」



廃棄物は、安心・安全・確実な処理とともに、環境保全や資源保護に貢献する処理が地域社会や排出事業者様からの要請です。

エス・エヌ・ケー・テクノ(株)は、期待される廃棄物処理を目指し、新日本技研(株)の環境事業部門を分社し設立されました。

一層の連携を図り、目的達成のための企業活動を展開します。

新日本技研(株)

代表取締役社長 伊藤 潔

船舶廃油処理事業

中部マリン・サービス(株)

日本トランスシティ(株)

エス・エヌ・ケー・テクノ(株)

三社が連携し、四日市港に入港する船舶の船舶洗浄水処理事業を行うことについて中部運輸局長の許可を得、体制が整いました。これまで、わざわざ関東や関西地区に運搬し処理せざるを得ませんでしたが、入港船舶の利便と海洋の環境保全に取り組めます。

SDGs (エスディージーズ)「持続可能な開発目標」を学び実践しよう！

Sustainable Development Goals の略称です。

- ・ 社会が抱える問題を解決し、世界全体で 2030 年を目指して明るい未来を作るための 17 のゴール (P 23 参照) と 169 のターゲットで構成。(2015 年国連全会一致採択の国際目標)
- ・ 根幹にある「持続可能な開発」とは、「将来世代のニーズを損なわずに、現代世代のニーズを満たす開発」をいいます。あらゆる分野における社会の課題と長期的な視点でのニーズが詰まっています。
- ・ 持続可能な会社にするためには、今の社会のニーズだけでなく、将来のニーズも満たすような事業展開が必要です。私たちは、自らの取組に関連する SDGs をあてはめて開示することを通じ、2030 年の自社の姿を考えた環境経営に取り組めます。

3 廃油・汚泥等の再資源化処理プラント「北勢工場」です

北勢工場は 第1エリア・第2エリア・阿下喜エリア 構成で3エリアを一体運営

♥ 第1エリア・第2エリアは廃油等の補助燃料等への再資源化処理を行うエリアです

産業廃棄物（特別管理産業廃棄物）の処分業許可（中間処理）施設

産業廃棄物の廃油、廃酸、廃アルカリ等をセメント焼成用補助燃料等に再生処理（中間処理）する施設

危険物製造所としての許可施設〔第2エリア内〕（消防法）

危険物第4類第1石油類となるエマルジョン燃料の製造施設

船舶廃油処理事業許可施設

（海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律）

四日市港での船舶廃油処理事業許可施設

産業廃棄物の中間処理施設			
会社名	エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社 許可番号 第02421069799号 産業廃棄物 許可番号 第02471069799号 特別管理産業廃棄物		
施設名	混練（第1エリア）	混練（第2エリア）	中 和
産業廃棄物の種類	汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類（石油系廃棄物を除く）、ばいじん、引火性廃油、特定有害廃油（1,4-ジオキサン）	引火性廃油、廃酸・廃アルカリ、特定有害廃油（1,4-ジオキサン）	廃酸・廃アルカリ、腐食性廃酸、腐食性廃アルカリ
処理能力	252.0t/日	252.0t/日	48t/日
管理者名	エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社 北勢工場 工場長 汲田 直俊 いなべ市北勢町瀬木松之下633番地 TEL 0594-72-7850		

♥ 阿下喜エリアは汚泥等のセメント原料等への再資源化処理を行うエリアです

産業廃棄物の中間処理施設	
会社名	エス・エヌ・ケー・テクノ（株） 許可番号 第02421069799号 産業廃棄物
施設名	混 練（阿下喜エリア）
廃棄物の種類	汚泥、廃油、廃プラスチック、ばいじん
処理能力	64t/日
管理者	エス・エヌ・ケー・テクノ（株） 工場長 汲田 直俊 いなべ市北勢町阿下喜字中川原3419番1 TEL(0594)-37-4144



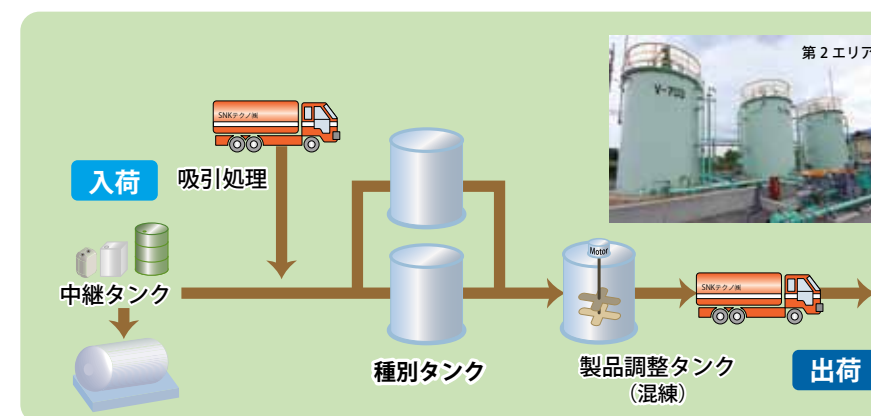
挑戦します！
「廃棄物は大切な資源」
安心・安全・確実に処理します



工場長 汲田直俊
産業廃棄物中間処理工場のイメージを
転換する環境管理を徹底します
ISO環境管理責任者

廃棄物再資源化処理施設整備の歩み

- 平成 7年12月 北勢工場新設（現：第1エリア部分）
- 15年 5月 第2エリア増設（第1エリアに隣接）・・・・・・・・・・ 廃油等再資源化強化
- 19年 4月 処理困難物前処理棟設置 ・・・・・・・・・・ 難処理物の再資源化挑戦
- 21年 3月 第2エリアに危険物製造所設置 ・・・・・・・・・・ 引火性廃油の再資源化拡充



引火性廃油の安全・安定した再資源化処理を行うため、平成20年11月26日桑名市長の許可を得て、第2エリア内に危険物製造所を設置。

危険物第4類第1・2石油類及びアルコール類の取扱に対応できる設備として、受入、保管及び中間処理（混練）工程により、危険物第4類第1石油類となるエマルジョン燃料の製造施設。平成21年4月から稼働。

23年4月 第1エリアの粉体廃棄物再資源化設備を充実整備

平成23年4月第1エリアにおける粉塵の飛散や粉塵爆発防止対策等に対する設備を充実整備し、粉体廃棄物の再資源化を推進。

27年2月 阿下喜エリアに難処理汚泥等の再資源化設備を整備

殆どが液状廃棄物処理の現状から、資源利用されていない固形状難処理汚泥等について、北勢工場の再資源化機能を一層拡充。



◆処理困難廃棄物の再資源化取組状況

処理困難廃棄物の再資源化に向けての第一歩は、常に地道な取り組みです。安心・安全・確実な処理のもと、様々な知見を積み重ね再資源化に挑戦します。



その他 三重県産業廃棄物税条例の「再生施設」です

三重県では、産業廃棄物の中間処理施設への搬入に対し、排出事業者には産業廃棄物税が課されますが、この再生施設へ搬入する場合は課税されません。

計量証明事業登録（濃度）事業所です

ISO14001 認証取得工場です

4 北勢工場搬入廃棄物の再資源化システムと環境貢献評価です

北勢工場搬入廃棄物の 99.5%を再資源化



年度別 再資源化実績

年度(平成)	補助燃料等搬入量(利用実績)	北勢工場搬入廃棄物の再資源化率
30年度	51,862 (トン)	99.5 (%)
29年度	50,385	99.3
28年度	46,458	99.2
27年度	42,281	98.9
26年度	41,123	98.6
25年度	38,533	98.7
24年度	32,971	98.0

平成 30 年度にお取引先 896 社から処理委託され、北勢工場へ搬入された廃棄物 52,133 トンにつきましては、セメント焼成用補助燃料等に再生処理（中間処理）して、51,862 トン（99.5%）を再資源化して供給しました。

このうち、搬入廃棄物の性状等から、セメント焼成用補助燃料としての利用実績は 34,365 トン、セメント製造施設を運転管理する工程で、工業用水の一部代替水としての中和処理水利用実績 11,590 トン、セメント原料としての利用実績 5,907 トンです。

処理困難廃棄物の再資源化への積極チャレンジは、一時的に再資源化率を低下させますが、研究・工夫を重ね、その向上に取り組んでいます。

中間処理に伴う環境負荷と再資源化がもたらす環境評価

❖ 廃棄物の再資源化に挑戦し、社会経済活動で生じる環境負荷を低減 ❖

[平成 21 ～ 30 年度 10 年間] エネルギー生成量 石炭（一般炭）約 22 万トン相当
CO2 排出抑制量 約 40 万トン相当

区分 年度	エネルギー視点評価 (GJ)			CO2 視点評価 (トン)		
	自社中間処理に伴う環境負荷 (A)	再資源化に伴う環境保全(負荷抑制) (B)	環境貢献 (B-A)	自社中間処理に伴う環境負荷 (A)	再資源化に伴う環境保全(負荷抑制) (B)	環境貢献 (B-A)
30	消費量 約 2,826GJ 内訳 電力 287,899kwh 輸送燃料 47.56 kl (合計熱量) 2825.73GJ	生成量 約 646,290GJ 石炭（一般炭） 約 25,100トン 相当の資源保護 効果	GJ 643,464	排出量 約 1,049 トン 内訳 エネルギー 消費量分 259.43 トン 残渣焼却 (他施設分) 789.57 トン (合計排出量) 1,049.00 トン	排出抑制量 約 44,700トン 搬入廃棄物が資源化されずに全量単純焼却処理された場合の CO2排出量	トン 43,651
29	2,659	632,200	629,541	1,271	43,800	42,529
28	2,369	601,600	599,231	1,252	41,600	40,348
27	2,300	539,200	536,900	1,617	37,300	35,683
26	2,448	554,500	552,052	1,935	38,400	36,465
25	2,357	584,900	582,543	1,737	40,500	38,763
24	2,183	531,800	529,617	2,164	36,800	34,636
23	2,084	566,269	564,185	1,642	39,200	37,558
22	2,084	593,555	591,471	1,127	41,100	39,973
21	1,854	527,487	525,633	842	36,550	35,708
計 (10年間)	23,164	5,777,801	5,754,637	14,636	399,950	385,314

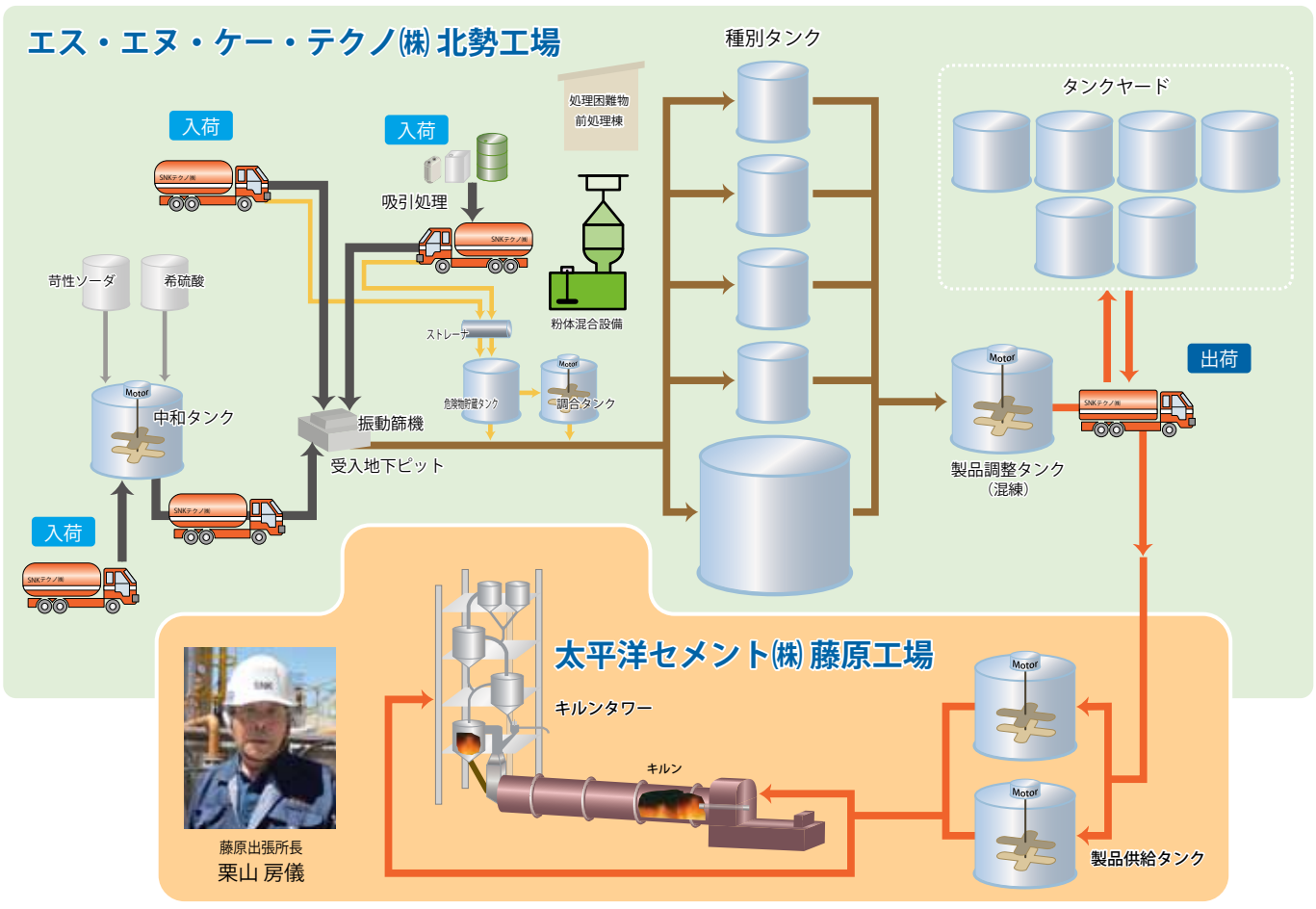
※現状のエマルジョン燃料は、石炭（一般炭）CO2 排出量よりも少なく、石炭代替燃料としても排出抑制効果がある。
概ね 20%程度の排出量の減量が期待できる。

太平洋セメント(株)藤原工場との再生処理連携システム

太平洋セメント(株)藤原工場と当社北勢工場（第 1・2 エリア）は直線距離で 1.5 km、阿下喜エリアはほぼその中間点に位置し、効率的な再生処理連携システムが構築されています。

○ 廃油等の補助燃料への再生処理（第 1・2 エリア中間処理）連携システム

- お客様から集荷した廃油等から異物を除去し、化学的、物理的特性に応じて種別タンクに仕分けして貯蔵
- 製品規格に適合する調合割合で混合・攪拌するなどして製品化
- セメント焼成工程ロータリーキルン補助燃料として燃焼処理
 - 高温燃焼（1,450℃）でダイオキシン等有害物質生成は完全抑制
 - 二次廃棄物の発生無（原燃料は全てセメントに取込まれる）



○ 汚泥等のセメント原燃料への再生処理（阿下喜エリア中間処理）連携システム

- 集荷汚泥等を性状に応じて、建屋内受入施設の原料ピットや原料ヤードに貯蔵
- 製品調整ミキサーで適量混合し、セメント原燃料規格に適合する成分に調整
- セメント焼成工程の原燃料として焼却・焼成処理





平成 26 年 6 月
ガスクロマトグラフ質量分析
装置導入等に伴い試験分析室
を場内移転拡充整備



環境計量士 課長 柴原 明
(濃度関係)

❖ 適正処理方法の選択に対する適切な情報提供 ❖

事業者は、原則として、その産業廃棄物を自ら処理しなければなりません。自ら処理できない場合には、許可を受けた処理業者等にその処理を委託することができます。ただし、委託した場合であっても、適正に処理が完了するまでは、その産業廃棄物に関する責任があります。

廃棄物の安心・安全・確実な処理を基本として、この排出事業者責任はもとより、地域社会や顧客のニーズ・信頼に応えられる廃棄物の再資源化に取り組めます。

当社との契約前の事前分析、原料受入分析等を必要に応じて行うほか、お客様に「廃棄物データシート (WDS)」の提出をお願いしています。双方の協力が廃棄物の再資源化や適正処理を進めます。



発熱量測定作業

❖ 二次廃棄物を出さないセメント焼成用補助燃料等への利用促進 ❖

セメントの原燃料は全てセメントに取り込まれ、二次廃棄物は出ません。セメントの品質確保を絶対の要件として、責任を持った品質管理を行い再資源化を促進しています。

❖ 企業排出廃棄物の変化に伴う廃棄物の適正処理への研究・工夫 ❖

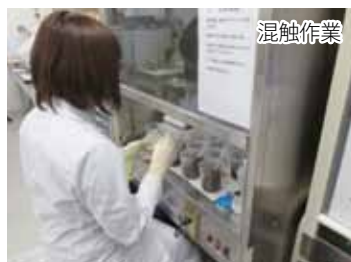
❖ 再資源化処理困難廃棄物の処理範囲拡大に向けての研究・工夫 ❖

❖ 「環境配慮方針」を定め、再資源化事業における環境負荷を低減 ❖

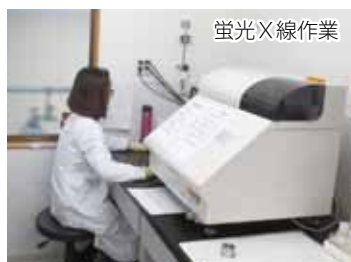
- 取組事例 1 廃酸・廃アルカリの中和処理について、廃液の事前分析により、できるだけ廃液同士での中和を行い、再資源化原料使用量を削減
※搬入廃棄物に対する中和剤の使用割合 0.054%
- 取組事例 2 油タンク等清掃スラッジは、溶剤系廃棄物で溶解し、製品調合して資源化
- 取組事例 3 搬入廃棄物の一部を、脱臭スクラバーの消臭薬剤として利用



自動燃焼-イオンクロマト作業



混触作業



蛍光X線作業

❖ 再資源化に向けての研究 ❖

環境理論や技術で裏打ちされる再資源化処理を研究・工夫し、再資源化処理困難廃棄物の処理範囲を拡充します。

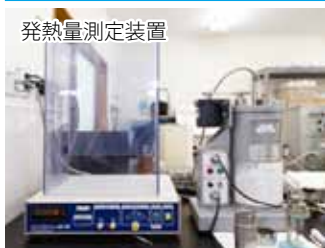
これまでの経験を活かし、既存の理論・技術を新しい観点から応用・工夫する等の柔軟な発想を持ち、営業担当の提案に耳を傾け北勢工場試験分析室を活用し、関連会社ウィズ・ネット(株)と協働して、チームで着実に推進します。



ガスクロマトグラフ質量分析 /ECD 測定装置



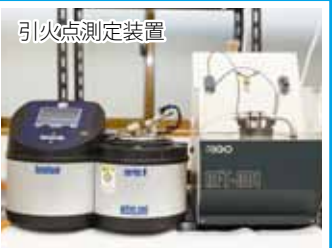
自動燃焼-イオンクロマト
グラフ分析装置



発熱量測定装置



蛍光X線分析装置



引火点測定装置

測定実施項目と内容		測定実施時の環境配慮事項等
全ハロゲン、硫黄量測定	ハロゲン及び硫黄含有量を燃焼分解後のイオンクロマトグラフ法で測定	従来の機器での酢酸使用が無くなり、悪臭の発生なし。測定廃液はセメント焼成用補助燃料に利用
発熱量測定	発熱量を燃焼による水温上昇によって測定	有害燃焼ガスは第一工場脱臭設備で処理
蛍光X線測定	蛍光 X 線を用いて元素含有量測定 (定量分析で塩素・硫黄・リン・臭素・ヨウ素測定) (FP 法分析 (半定量分析) ナトリウム〜ウラン測定)	廃液の大まかな構成物質の把握が可能となり一層の適正処理に貢献。リサイクル可能な金属の検出も可能
pH 測定	試験紙の色の変化により測定または pH メーターでの水素イオン濃度測定	環境負荷の小さい試験紙を優先使用 (正式、正確な測定は) PH メーター使用)
中和量測定	中和剤使用量を中和滴定によって測定	市販の中和剤を極力使用せず廃液 (廃酸・廃アルカリ) 同士での中和を積極的に導入
引火点測定	タグ密閉式またはセタ密閉式測定方法で測定	省エネタイプの冷却水循環装置を使用 セタ密閉式の導入により、様々な条件の引火点も測定可能
クロム (VI) 測定	六価クロムを指示薬着色による吸光度分析により測定	測定廃液はセメント焼成用補助燃料に利用
過酸化物質測定	ヨウ素でん粉反応を利用した滴定で測定	測定廃液はセメント焼成用補助燃料に利用
水分量測定	カールフィッシャー水分測定法で測定	測定廃液はセメント焼成用補助燃料に利用
ガスクロマトグラフ質量分析 /ECD 測定	揮発性有機化合物 (VOC) や 1, 4 -ジオキサン の含有量をガスクロマトグラフ質量分析法 ポリ塩化ビフェニル等をガスクロマトグラフ (ECD) にて測定	前処理の抽出にパージ&トラップ濃縮導入装置を使用し、環境基準値以下の濃度でも測定可能で、さらなる一層の適正処理に貢献 (1, 4 -ジオキサン含有廃棄物でも処理可能)。また、新たに電子捕獲型検出器 (ECD) を取り付け、PCB (ポリ塩化ビフェニル) 等の測定も可能となった
混触試験	廃棄物の混合によって起こる反応性の有無についての測定	反応を抑えて処理する廃液混合を模索し処理可能になるよう研究
溶解試験	固形廃棄物の溶解処理の可否試験	固形廃棄物の処理拡大のための研究開発実施
汚泥の試験	水分量測定、熱灼減量測定、必要に応じ灰分の蛍光 X 線分析	有害燃焼ガスは第一工場脱臭設備で処理

※その他の環境配慮 ・測定後のサンプル・試薬の約 98%はセメント原燃料に再利用
・分析器具の洗浄水もセメント原燃料に再利用

「計量証明事業登録」

濃度に係る計量証明の事業 (平成 23 年 8 月 11 日)

5 廃棄物収集運搬事業部門の再資源化挑戦取組です

わたしたちの廃棄物収集運搬理念

わたし達が収集運搬する廃棄物は殆ど再資源化されます。従って、私たちは、大切な資源を収集運搬していると考え行動します。



最前列：下水道汚泥専用車輛



赤い車輛は、創業者の安全・適正な収集運搬の決意です。
創業時の決意と伝統を引き継ぎ、収集運搬する廃棄物を一人一人が大切な資源として取扱っています。

再資源化廃棄物の収集運搬目標と実績



汚泥等については、その特性により施設設備の整備状況や処理コストなどから容易に再資源化の進まないものがたくさんあります。こうした汚泥等の再資源化に向けて、太平洋セメント㈱藤原工場様や関連会社のウィズ・ネット㈱と連携・協働して継続して取組んでいます。

◆平成 28 年度から 3 カ年の第三次計画期間の目標は、95%に設定し取組
第 3 次計画 30 年度は、95%以上の目標に対し 97.4%の実績でした。

		廃棄物総収集・運搬量 (A)	左の廃棄物処理内訳			再資源化収集運搬率 B/A
			再資源化 (B)	焼却処分等		
第 1 次計画 (平成 19 ~ 23 年度)	基準値 (18 年度実績)	52,749 t	46,348 t	6,401 t		87.9%
	目標値 (5 カ年平均値)	—	60,000 t	—		90.0% 以上
	実績値 (5 カ年平均値)	73,133 t	67,718 t	5,415 t		92.6%
第 2 次計画 (平成 25 ~ 27 年度)	基準値 (24 年度実績)	80,823 t	76,268 t	4,555 t		94.4%
	目標値 (実績値)	25 年度	— (87,377t)	— (82,465t)	— (4,912t)	95.0% (94.4%)
		26 年度	— (91,676t)	— (86,707t)	— (4,969t)	95.0% (94.6%)
		27 年度	— (92,426t)	— (88,062t)	— (4,364t)	95.5% (95.3%)
第 3 次計画 (平成 28 ~ 30 年度)	目標値 (実績値)	28 年度	— (97,863t)	— (94,218t)	— (3,645t)	95.0% (96.3%)
		29 年度	— (104,583t)	— (101,995t)	— (2,588t)	95.0% (97.5%)
		30 年度	— (109,586t)	— (106,723t)	— (2,863t)	95.0% (97.4%)

※ 平成 19 年度から、三重県下の流域下水道で発生する汚泥を、全量セメント原料として再資源化処理する事業に、太平洋セメントと当社を含む収集運搬事業者 2 社の 3 社が共同参加。当社においては、生活環境に及ぼす影響に最大限留意して、汚泥の運搬専用車輛（完全密閉式自動シート・消臭剤散布機装備）8 台を導入して収集運搬しています。

◆ 6 種類 40 車輛を保有し、安全・環境に優しい収集運搬

粉粒体運搬車	フックロール車	バキューム車	タンクローリー車	平ボディ車	ダンプ車
粒子の小さい飛散性のある固形物の運搬 長距離、高所に粉粒体を排出可能	汚泥等バラ物の運搬 キャリアと荷台が分離できる アーム式脱着装置付コンテナシステム車	液体物の運搬 真空ポンプでタンク内を減圧して吸引、加圧して排出	液体物の運搬 3～4 室に区画され、吸引・排出時は他動力使用可	容器類（ドラム・コンテナ・フレコンバック等）の運搬 ・ 8t パワーゲート車輛装備 ・ 13t ウイング車輛装備	汚泥等バラ物運搬 下水道汚泥専用車輛導入（完全密閉式自動シート・消臭剤散布機装備）

再資源化廃棄物の収集運搬を支える日常活動

◆ 安全衛生会議の開催

安心・安全・適正な収集運搬のための定例会議（毎月）を開催

- （議題例）・トラックを運転する場合の心構え
・ 事故事例に学ぶ
・ 車輛運行における危険性の確認
・ 過労運転の防止
・ 熱中症予防対策
・ インフルエンザ予防対策・・・等



◆ 安心・安全・確実な配車計画



運行管理者 池田直登

◆ 駐車場の環境管理



油水分離槽清掃作業



周辺清掃



消臭剤散布機装備

◆ 安全運転管理



アルコールチェック

◆ 車輛や積載器材の点検

日常点検が信頼の第一歩！



血圧測定



帰庫後 デジタコ読取

6 北勢工場の環境保全と環境クレームの状況です

北勢工場の環境保全の状況

臭 気

臭気対策は、ISO14001 の環境目標に悪臭対策を定め取組んだほか、北勢工場試験分析室を中心として、継続しての改善に取り組んでいます。
臭気の除去は、スクラバー方式（湿式）6 連及び消臭剤散布設備の二重対策や排出ガス脱臭装置を設置しています。

◆ 北勢工場臭気規制基準と測定値

工場・事業場から発生する悪臭の防止については、悪臭防止法に基づく規制地域の指定や規制基準の設定が規定されています。
規制手法としては、
①特定悪臭物質規制（不快な臭いの原因となり、生活環境を損なう恐れのある 22 物質による濃度規制）と
②臭気指数規制（人間の嗅覚を用いて悪臭の程度を数値化）の 2 種類があり、いなべ市は②臭気指数規制です。

北勢工場に適用される規制基準及び指定期間内直近測定値は、次の通りです。

①事業場の敷地境界線の地表における規制基準	臭気指数 15	（測定値 10 未満）
②第 1 エリア 脱臭装置出口	〃	〃 43 （ 〃 27 ）
③第 2 エリア 活性炭出口	〃	〃 45 （ 〃 27 ）

◆ 臭気測定機器による北勢工場臭気測定状況（自主測定）

区 分		第 1 エリア	第 2 エリア	阿下喜エリア
臭気指数 15 に相当するモニター測定値		391	391	391
臭いを感じ始めるモニター測定値レベル ※ 1		350	350	350
モニター測定値 （原則毎週 1 回）	A 地点 最大値～最小値	1 ～ 0	2 ～ 0	0 ～ 0
	B 地点 最大値～最小値	16 ～ 12	11 ～ 8	0 ～ 0

測定機器：コスモス電機製ポータブルニオイモニター XP-329ⅢR
※臭いを感じ始めるレベル 適用される臭気レベルの基準はないが、臭いを感じるレベルは概ね 350 位である。
このレベルでは環境クレームに至っていない。



北勢工場の臭気測定値は規制基準を十分クリアしていますが、お客様のニーズに応える再資源化処理の拡充をめざして整備した第 1 エリア脱臭設備（吸収塔）です。



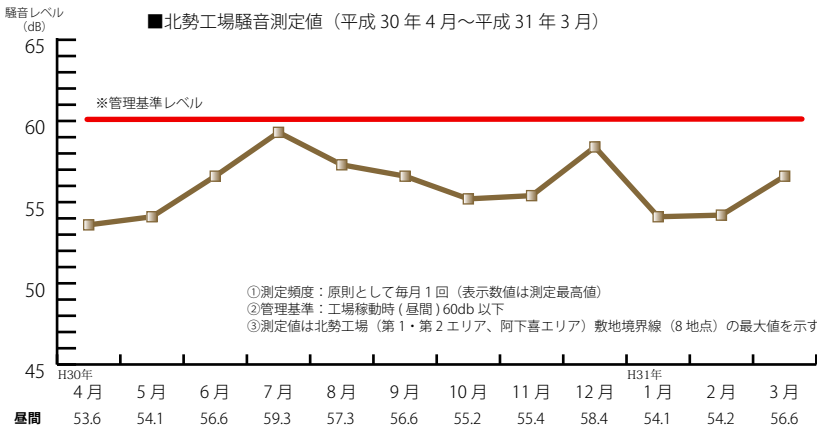
飛散・流出・浸透防止

◆ 工場排水口における水質管理基準（いなべ市環境保全協定）と測定値

測定項目	管理基準	30 年度測定値（毎月 1 回）	
		第 1・2 エリア	阿下喜エリア
水素イオン濃度（pH）	5.8 以上 8.6 以下	7.0 ～ 7.5	7.3 ～ 8.0
生物化学的酸素要求量（BOD）	25mg/ℓ（日間平均 20mg/ℓ）以下	0.2 未満～3.0 mg/ℓ	0.2 ～ 2.7 mg/ℓ
浮遊物質（SS）	90mg/ℓ（日間平均 70mg/ℓ）以下	1 未満～ 4.0 mg/ℓ	1 未満～12.0 mg/ℓ
大腸菌群数	3,000 個/cm ³ 以下	1 未満～220.0 個/cm ³	1 未満～200 個/cm ³
ノルマルヘキサン抽出物質含有量（鉱油類含有量）	5mg/ℓ 以下	1 未満～2.0mg/ℓ	1 未満～1.0mg/ℓ

騒 音

構造物での遮蔽壁（吸音板）の設置、アイドリングストップ、夜間作業は原則行わない等の対策を行っています。



産業廃棄物中間処理工場のイメージを転換する環境管理を徹底します



防 火

工場には火を使う処理工程はありません。危険物タンクには、泡消火設備、消火ポンプ設備を設置して、不測の事態に備えています。

北勢工場への環境クレームの状況

環境クレームに対しては、様々な事例を想定して、発生させない事前の取組を基本として取組んでいます。平成 17 年度に悪臭に対する環境クレームが発生したことから、臭気対策に不断の努力を重ね、その後、環境クレームに至るまでの事案は発生することなく経過しました。しかしながら平成 24 年度・26 年度・27 年度・28 年度と社会経済活動の変化等に伴う新たな臭気クレームの発生がみられ、できる限りの改善措置を講じました。

平成 29 年度・30 年度においては臭気クレーム等は発生していません。

臭気問題は、単に法令基準の適合のみでない機微の事項もあることから、今後とも廃棄物再資源化へのご理解・ご協力の妨げとならないよう、一層の改善に万全を尽くします。

〔直近のクレーム事例〕

種別	発生日	相手方	状 況	対応措置と結果
臭気	平成 28・9・15	近隣企業	始業前で機器類の起動はなかったが、アミン系の臭気を確認。前日入荷の水系 TY（アミン臭）の処理量が多かったため、気温の上昇とともに臭気がタンク上部から出たものと推定。	・ 直ちにスクラバーを起動して臭気低減 ・ 今後は、処理量を調整し、臭気の高減を図ることを徹底指示

7 安定・事業継続のための「環境経営」 向上取組です

「環境 & 企業経営」、「ワーク & ライフ」を二つの同軸理念で企業活動を展開

「環境と企業経営は対立する軸でなく、同軸で捉える環境経営の推進」を掲げ、環境マネジメントシステムを活用して、全従業員の「環境経営理念」の共有を図っています。

今後、環境経営理念と同様に、『「ワーク」・「ライフ」を対立する軸でなく同軸で捉え、社員一人ひとりの充実したワーク・ライフ・バランスの好循環が、安定・継続する企業活動を創造する。』との二つの同軸理念のもと、少子高齢化に対応できる企業活動を展開する必要があると考えます。小規模企業にとって、導入・定着が困難な課題ですが、この認識から社長メッセージ（P1）を発信しました。環境管理委員会の機能を活用して、全員で推進します。

環境経営理念の全従業員共有取組

ISO14001 の取組においては、基本的な事項について「自覚を促す教育・訓練」として全部門で毎年実施し、「環境経営理念」の共有に努めている。

- ＊環境目的・目標達成取組活動に関する教育・訓練
- ＊環境マネジメント規定・マニュアル改訂等に伴う教育
- ＊グリーン購入ガイドライン教育
- ＊内部監査員教育
- ＊「安全・環境経営レポート」理解促進教育
- ＊新入社員（初任者）研修・・・等



ISO14001「環境方針」と推進体制

環 境 方 針

1 基本理念
エス・エス・ケー・テクノ株式会社は、「廃棄物は大変な資源」であることを共有し、安定・継続する廃棄物再資源化を推進し、更なる再資源化に挑戦する企業活動を展開します。
我々が目指す廃棄物の再資源化事業においては、「環境と企業経営を同軸でとらえる環境経営の推進こそが、地域社会や顧客の信頼を得られ、企業活動が進展する。」との環境経営理念のもと、すべての業務が地球環境に与える影響を考慮し、更なる環境経営活動の継続的改善を目指して、全社員が一丸となって環境と共に歩む企業を目指します。

2 基本方針
(1) 資源化を通じて環境保全に貢献
●企業間の共同連携体制を確立し、廃棄物の再資源化に挑戦して社会活動で生じる環境負荷を低減する。

(2) 環境に配慮した事業活動
●すべての業務における環境影響の評価に当たっては、ライフサイクルの観点も考慮して適切に評価し、環境配慮物品の調達、廃棄物の発生抑制、環境の保護、汚染の予防に努め、地域社会により信頼される企業活動を展開する。

(3) 環境マネジメントシステムの運用
●環境経営に適合する重要な環境目標を定め実行する。
●環境監査等を通じて継続的な改善を図り、全社員の環境に対する認識の向上並びに活動の推進のため、教育を徹底する。
●環境情報の公開、第三者評価等、環境コミュニケーションに積極的に取り組む。

(4) 法令等の遵守
●事業活動に適用される環境に関する法規制や当社が同意する要求事項を明確に把握し、遵守する。

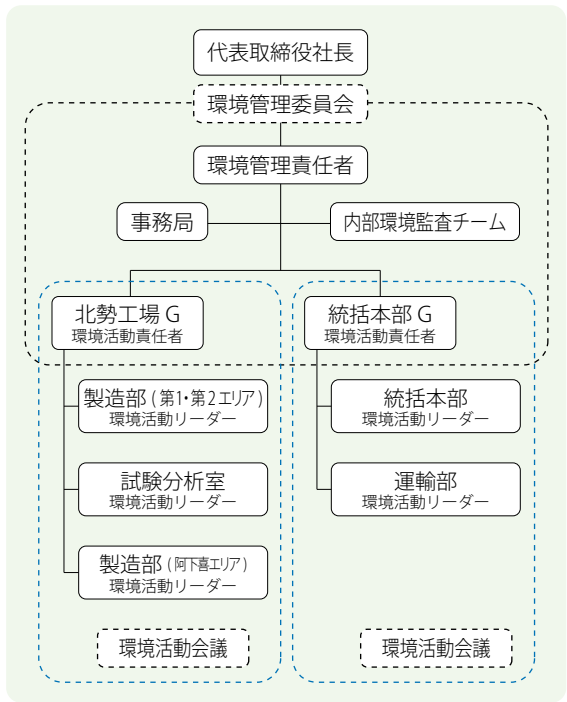
環境方針は、求めに応じ利害関係者に開示し、事業活動に関わる全ての従業員や関連会社に周知する。

2016年4月1日

エス・エス・ケー・テクノ株式会社
代表取締役社長 伊藤 祐介

環境保全推進体制

経営者（最高責任者）を代表取締役社長とする体制で取り組んでいます。



- ・「環境管理委員会」は、各部門の責任者で構成され、定期的開催。推進方針の決定や進行管理を強力に推進。
- ・安全や環境経営について、知識や経験のある関連会社社員も参加

認証取得経過			2010年 10月 12日	第2回更新
2004年 11月 1日	北勢工場取得		2013年 4月 18日	審査機関登録変更 BSI→ISCへ
2005年 11月 10日	全社拡大認証取得		2013年 11月 1日	第3回更新
2007年 10月 12日	第1回更新		2016年 11月 1日	第4回更新
			※2017年の継続更新は2015年版規格において認承取得	

ISO14001「環境目標」と活動報告



◆第1次「環境目標」と取組結果（2004～2006年度）

電気、用紙、燃料、中和剤等の使用量の削減と悪臭対策としての設備整備等15項目を環境目標に設定し、継続的な改善に取り組んだ結果、14項目で計画達成、1項目（工場事務部門省エネ）未達成

◆第2次（2007～2009年度）及び第3次（2010～2012年度）「環境目標」と取組結果

電気使用量の削減等については、社員の意識や行動が定着してきたことから、環境目標とせず、管理的な項目として継続的に取組むこととし、本来の業務の中での環境負荷低減の視点を重視し、また、環境方針及び環境保全組織も変更

◆第4次「環境目標」と取組結果（2013～2015年度）

第4次の環境目標は、第3次に引き続き、本来業務の中での環境負荷低減に注力し、チャレンジ的な目標を掲げ取り組んだ結果、ほぼ達成できました。

社員の意識や行動が定着してきた従来の環境取組みについては、環境目標としないものの、管理的な項目（掲載省略）として継続して取り組むこととしています。

目標項目（主たるもの）	最終年度(2015年度)到達環境目標	2015年度実績	評価
廃棄物の資源化量（北勢工場への搬入量）増大	41,500 トン	41,115 トン	△
グリーン購入（品目指定）	指定品目の100%	100%	○
再資源化廃棄物の収集運搬率	95.5%	95.3%	△
タンク等清掃時に発生するスラッジの資源化	80%を資源化	96.5%	○
輸送1tあたり燃料使用量の削減	平成24年度比3%削減	3.4%削減	○

（注） ○目標達成 △相当の取組が認められるが未達成 ×取組未着手又は取組希薄で未達成

◆第5次「環境目標」と取組結果（2016～2018年度）

第4次に引き続き、本来業務の中での環境負荷低減に注力し、「廃棄物の資源化量増大」と「再資源化廃棄物の収集運搬率」の向上を主要環境目標として取り組んだ結果、達成できました。

目標項目（主たるもの）	最終年度(2018年度)到達環境目標	2018年度実績	評価
廃棄物の資源化量（北勢工場への搬入量）増大	52,000 トン	53,920 トン	○
グリーン購入（品目指定）	指定品目の100%	100%	○
再資源化廃棄物の収集運搬率	95%以上	96.9%	○
タンク等清掃時に発生するスラッジの資源化	90%を資源化	90.4%	○

◆第6次「環境目標」（2019年度）

目標項目（主たるもの）	到達環境目標
廃棄物の資源化量（北勢工場への搬入量）増大	54,700 トン
グリーン購入（品目指定）	指定品目の100%
再資源化廃棄物の収集運搬率	95%以上
タンク等清掃時に発生するスラッジの資源化	92%を資源化

※次回から「環境目標」と「中期経営計画」を同期間設定とするため、2019年度は、単年度の環境目標設定

安定・事業継続する企業活動のための働き方（ワーク・ライフ・バランス等）を考える

◆三重県内事業所労働条件等実態調査（平成 30 年度三重県雇用経済部実施）の概況
常用従業員 10 人～ 300 人未満の事業所 2,000 事業所調査：有効回答数 983 事業所
調査項目と数値等

- ①月平均所定外労働時間 15 時間 8 分
③年次有給休暇平均取得日数 8.2 日
⑤女性の管理職（役員除く）比率 18.7%
⑦ワーク・ライフ・バランスの推進取組み事業所 68.3%・・・等
- ②年間総平均休日日数 108.7 日
④育児休業取得率 男性 4.4% 女性 95.7%
⑥女性の働きやすい環境づくり推進率 80.1%

※当社の実施状況は、回答他社に比べ一定の水準にあるが、少子高齢化進展のもとで、今後、安定・事業継続する企業活動のための働き方を進める。



社員メッセージ



“懸命の鮎釣り大会”卒業しました！
釣友と初心者指導の楽しい鮎釣りです！

北勢工場 課長
東原忠烈

気の合った同僚や 20 代～ 70 代の幅広い太公望で“三重はらん会”結成。

毎年、初夏～初秋のアユ釣りシーズンは、主に日曜日に例会開催し、鮎釣りの醍醐味はもとより、釣り上げた鮎の串焼きや持寄り食材のバーベキューを楽しんで、リフレッシュ！

- ※外野席情報：知る人ぞ知る鮎釣り名人！
- ・平成 12 年 いびがわ世界アユ釣り大会 準優勝
 - ・平成 13 年 中日スポーツ杯争奪全日本鮎釣り選手権大会 3 位
 - ・平成 20 年 中日職域 清溪釣り連盟合同アユ釣り大会 優勝



夫婦でハーフマラソン
完走しました！

取締役 常務
岩田恭典

2019 年 4 月 28 日高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソンに夫婦で参加。

- 一般男子の部三重県走者 18 位
- 一般女子の部三重県走者 8 位

中日新聞の掲載結果です。

※外野席情報：家庭内に変化の予兆？

- ・2018 年同大会三重県走者 7 位 1 時間 28 分 50 秒
- ・2018 年 7 月 27 日富士登山競争「五合目コース」を「山頂コース」出場権タイム（2 時間 20 分以内）を上回る 1 時間 56 分 57 秒で完走。次回挑戦意欲満々！



強力なアウトドア派が出現！

2019 年 4 月 7 日四日市シティロードレース大会参加。

岩田常務、牧野営業部次長（中央）、加藤営業部主任の 3 名参加。

牧野さんは、トライアスロンが趣味！社内きってのアウトドア派は??

衛生標語の募集（応募 46 件）

最優秀標語 北勢工場 高野利幸

「大丈夫？」「調子どう？」

一声かける気配りが

仲間を救う健康職場

「改善提案」募集への社員提案（22 件）

安全・環境経営意識の向上が、
積極的な提案に繋がっています！



3 児のママお勧め！
スマホでヨガ！

北勢工場 分析室
花城 暁子

最近ヨガを始めました。ヨガ教室に通うのではなく、ヨガアプリをスマホにダウンロードしての 1 回 15 分程度の初心者コースです。

家事・育児・仕事が言い訳の運動不足の身には、まあまあきついです。忙しい毎日ですが、自分のペースで続け、心身ともにリフレッシュして元気なママ続けます。

アプリ“毎日ヨガ”お勧めです。

◆安全管理室情報発信 平成 30 年度（啓発活動）

No.	発行月日	安全衛生だより（掲載内容）
1	4 月 3 日	春の全国交通安全運動
2	4 月 25 日	ストップ！転倒災害
3	5 月 20 日	全国安全週間準備月間・熱中症に注意を
4	6 月 25 日	第 91 回 全国安全週間
5	7 月 11 日	平成 30 年度 夏の交通安全県民運動
6	7 月 25 日	電気使用安全月間
7	8 月 21 日	防災週間
8	8 月 30 日	全国労働衛生週間準備月間・メンタル力 UP
9	9 月 18 日	秋の全国交通安全運動
10	9 月 25 日	全国労働衛生週間
11	10 月 31 日	我が家（私）の健康づくり
12	11 月 2 日	秋の全国火災予防運動
13	11 月 26 日	年末の交通安全県民運動
14	12 月 4 日	年末年始無災害運動
15	1 月 7 日	新型ノロウイルスの感染に注意！
16	2 月 7 日	インフルエンザ警報レベル超！
17	2 月 21 日	平成 31 年 春の全国火災予防運動

8 環境マネジメントシステムと専門組織の両輪による「安全・環境保全」取組です

環境マネジメントシステム活用の教育・訓練等

「安全・環境保全」に関する教育・訓練等は全部門・全社員の参画を基本とする環境マネジメントシステムの中に組み込んで計画的に実施している。

◆事故や緊急事態の対処・環境保全訓練の実施

各部門や従業員が主体的に関わる各種の教育・訓練は、従業員の現状認識を高めている。

想定される事故等に対する明確な目標を定め、主体的に取り組む教育・訓練として計画的に実施する環境マネジメントシステムに組み込んで教育・訓練を実施している。



泡消火剤使用想定訓練

❖ 防火訓練

想定：タンクからの出火に対する泡消火薬剤使用想定訓練

訓練：消火ポンプ機動、泡消火薬剤使用想定訓練

消火栓からの消防ホースによる初期消火活動実施訓練



消火ポンプ起動操作

❖ 事故・災害時の緊急連絡教育

北勢工場内、太平洋セメント藤原工場内、その他顧客先・公道の三通りの連絡網と連絡要領についての教育

❖ 試験分析部門で想定される事故及び緊急事態の対処訓練

予想される事故及び緊急事態、汚染の予防手順及び役割、汚染の緩和手順及び役割、緊急連絡網の説明及び使用訓練、救急救命の方法と実施訓練、ガス検知器・保護具の使用法・・・等



ガス検知器での雰囲気測定



マスクを使っでの入室の様子

◆専門分野教育・訓練の実施

地域社会や顧客のニーズ・信頼に応えられる従業員の資質の向上に取り組んでいます。職場研修の充実、幅広い資格取得や受講の機会を提供しています。

- ＊各種資格取得のための講習会参加・受験
- ＊新規施設設備に関する教育・訓練
- ＊関連法令、規定類、手順書等の教育
- ＊特定試験分析作業と環境配慮事項等教育・訓練
- ＊薬品取扱・管理、安全に関する教育
- ＊他社廃油処理施設等の事故に学ぶ教育

◆収集運搬教育・訓練の実施

- ＊産業廃棄物収集運搬の法令順守教育
- ＊危険物タンクローリー車：廃液引取実施訓練
- ＊基本作業の徹底・運行前点検の実施強化
- ＊積荷作業中の墜落・転落等事故防止教育
- ＊環境・人に優しい運転マナーアップ教育
- ＊ウィング車、パワーゲート車の取扱手順教育

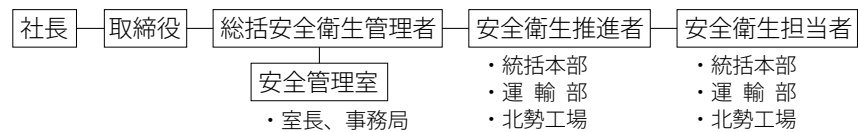
社員の資格取得状況（関係資格等の一部）

環境計量士 濃度関係	1 名
公害防止管理者 水質関係第一種	4 名
公害防止管理者 騒音関係	2 名
危険物取扱者 甲種	6 名
危険物取扱者 乙種第 4 類	56 名
産業廃棄物中間処理施設技術管理者講習	3 名
第一種衛生管理者	8 名
運行管理者	11 名
酸素欠乏等危険作業主任者技能講習	49 名
有機溶剤取扱作業主任者技能講習	39 名
特定化学物質及び四アルキル鉛 作業主任者技能講習	16 名
消防設備士 乙種第 6 類	5 名
ISO14001 内部環境監査員	13 名
普通救命救急講習	23 名
職長・安全衛生責任者教育	31 名
..... 等	

会社専門組織での「安全・環境保全」取組

「環境マネジメントシステム活用の安全・環境保全取組」とともに、幅広い専門的視点から、安全・環境保全を推進する「安全管理室」を設置し、専門的知識や技術を有する者を配置して取組んでいます。

◆安全管理体制



安全・環境経営トップパトロール

◆経営トップと安全管理室による全職場の安全・環境パトロール

パトロールは、安全管理及び環境経営の視点に立って、保護具の着用状況、不安全箇所・不安全行動の有無、整理整頓状況等きめ細やかな点検及び前回の指摘事項に対する是正状況を確認し、確実に改善します。

項目	30年度の状況	最近3カ年度の状況			備考
		29	28	27	
経営トップパトロール	2回（7月・10月）	2回	2回	2回	毎月1回定期的実施
安全管理室パトロール	10回	10回	10回	10回	* 軽微事項も重大事故に繋がるとの認識
年間指摘事項件数	27件	15件	17件	22件	で繰り返し指摘
未是正項目（現状）	なし	なし	1件	なし	

◆リスクアセスメントの取組強化

平成23年度から「リスクアセスメント」の取組を導入。全社を挙げて、事業におけるリスクを発見・特定し、特定したリスクを分析・評価して、改善実施。

平成30年度（取組8年目）は、北勢工場を対象に、化学物質リスクアセスメントに取組み、実施手順書の制定及び手順書に基づく主な化学物質のリスク評価を実施。

◆安全衛生大会の開催

日時等 平成30年7月7日（土）
40名参加（安全管理室主催：全社員参加・毎年実施）

表彰 社内各部門 安全衛生活動功労者表彰、
その他表彰

安全研修 ①「安全手法（自主活動）KY活動・指差し呼称の実践」・「危険予知訓練（進め方）」
②産業廃棄物コンプライアンス「不適正処置問題と法遵守」

安全標語の募集（応募47件）

最優秀標語 北勢工場 山田 凌

知らせよう!!

自分のヒヤリは みんなのヒヤリ
みんなで高める安全意識

◆安全衛生委員会の開催

第一回 平成29年度 安全衛生活動実績及び反省
(30年5月9日) 平成30年度 部門安全衛生活動計画(案)の検討等

第二回 第一四半期活動の反省
(30年7月24日) 安全週間の総括 第二四半期の活動確認等

第三回 第二四半期活動の反省
(30年10月31日) 労働衛生週間の総括 第三四半期の活動確認等

第四回 第三四半期及び平成31年1月の活動反省
(31年2月21日) 第四四半期の活動予定
2019年度 安全衛生活動計画(案)について等

◆安全衛生会議（北勢工場毎月開催）

（議題例）

- 安全衛生活動計画の周知
- 車輛乗務中の危険予測と回避について
- 夏場の廃棄物吸引作業時の注意事項
- 熱中症対策について
- 健康管理の重要性について
- インフルエンザ、ノロウイルス予防について
- 静電気発生による危険性

- 地球温暖化・CO2削減への取組み
- 酸欠、ガス中毒の災害予防について
- 車輛安全運行のために遵守すべき事項
- 火災予防について
- 危険物運搬時の留意すべき事項
- 保護具及び転落・墜落防止の重要性について
- 危険予知活動の推進
- 5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)の実施



9 社会貢献活動の取組状況です

地域社会の一員としての認識や活動は、企業活動において大切な事項の一つだと考えます。当社の人材や技術等を地域社会で活用することを中心に取組んでいます。

= 活動実績 =

◆災害義捐金を寄付

平成30年7月豪雨（西日本豪雨）災害義捐金を寄付させていただきました。

平成27年6月熊本地震災害、平成23年3月東日本大震災及び平成23年台風12号三重県災害に対する災害義捐金寄付に引き続き行ったものです。

被災者の皆様に心からのお見舞いを申し上げますとともに、1日も早い復興を願っています。

◆三重大学国際環境教育センター等への寄付

平成30年7月三重大学 国際環境教育研究センターに対し、国際環境教育の発展のため、3年連続で「三重大学教育研究助成金」として寄付しました。平成24年以降で6回目の「三重大学教育研究助成金」寄付となりました。



◆経営トップの環境関係委員等への就任・協力

- * 三重県環境審議会公募委員への就任（平成20年12月1日～22年11月30日）
- * 三重県環境審議会専門委員への就任（平成22年12月1日～平成24年10月31日）

◆他企業、団体等の環境取組等への協力

*消防署消防訓練（危険物施設事故対応訓練）への協力参加

訓練日時等：平成27年6月24日 エス・エヌ・ケー・テクノ(株) 駐車場
訓練内容：道路上でクレーン車がタンクローリーに追突し、第二石油類の廃油が漏洩

訓練参加機関：四日市中消防署（本署・中央分署）、消防救急課、
四日市市消防団三重分団、エス・エヌ・ケー・テクノ(株)



*みえ・グリーン購入倶楽部「伊勢志摩サミット応援事業」への協力

みえ・グリーン購入倶楽部(平成29年3月「みえグリーン活動ネットワーク」に改称)は、伊勢志摩サミット開催の機会を捉え、三重県旅館ホテル生活衛生同業組合青年部と「観光施設における環境経営」についての講演会を開催しました。当社もこの事業の開催を支援させていただきました。

*JICA（独立行政法人 国際協力機構）への事業協力

平成22年の事業協力に続き、平成24年11月7日JICAが実施した「コロンビア国ボゴタ首都特別区廃棄物総合管理基本プロジェクト」に協力してエマルジョン燃料の製造等の説明・北勢工場見学

*ICETT（公益財団法人 国際環境技術移転センター）への事業協力

平成20年10月24日、ICETTが実施した中華人民共和国河南省環境保護局研修員の公害防止技術研修協力

◆ビオトープの創出

平成27年2月に整備した阿下喜エリア敷地に約230㎡のビオトープを造りました。
廃棄物の資源化と小さな生態系を共生させ、ともに育てます。



ビオトープ

◆地域貢献活動

周辺地域美化活動

統括本部・小杉詰所・北勢工場周辺で春季及び秋季の年2回 毎年実施

安全・環境経営レポート裏面に「いなべ市の案内」掲載
工場見学者等に地域紹介



美化活動



美化活動後

10 環境コミュニケーションを大切に考えます

環境に関する情報を開示し、積極的に環境コミュニケーションを図ることにより、地域社会や顧客の信頼を得るとともに、自らの環境活動を継続的に改善する企業でありたいと考え行動し、このための取組を一步一步着実に築きあげます。このため、一層の環境コミュニケーションの充実を図り、皆様からのご意見やご指導をいただく機会を増やす努力を重ねます。

ISO14001 認証取得

- 2004 年 11 月 1 日 北勢工場取得
- 2005 年 11 月 10 日 全社拡大認証取得（2016 年 11 月 1 日第 4 回更新審査・確認）
- 2013 年 4 月 18 日 審査機関登録変更：BSI→ISC（地元審査機関活用のため）
ISC：一般財団法人三重県環境保全事業団 国際規格登録センター
※2017 年の継続更新は、2015 年版規格において認証取得

ホームページ開設 URL：http://www.snk-techno.co.jp

- ＝掲載内容＝
- 会社概要：代表あいさつ・会社案内・沿革・関連企業・アクセス
 - 事業概要：事業概要・産業廃棄物処理・廃棄物収集運搬・品質管理・各種許可証
 - 環境・安全取組：環境取組・ISO14001 認証・安全取組・社会貢献取組
 - その他：安全・環境経営レポート・採用情報・産業廃棄物についてのお問い合わせ

環境報告書（安全・環境経営レポート）第 15 版の作成、公表

令和元年 7 月、第 15 版「安全・環境経営レポート」（平成 30 年度活動報告）を作成し、公表。
平成 17 年 9 月初版発行（平成 16 年度活動報告）から連続 15 事業年度目の報告。
当社事業の性格上「安全」と「環境経営」を一体として捉える事が適切であることから、「安全・環境経営レポート」として作成。今後とも様々なご意見やご提案をいただきながら改善し、毎年発行します。 ※第四版以降毎年 7 月発行、第五版から第三者コメント掲載

工場見学（視察）の積極的受入

平成 30 年度は、145 企業等から 247 名の皆様にご視察いただきました。
アンケート等により様々なご意見をいただき、継続的改善に取り組んでいます。
今後とも、忌憚のないご意見をいただきますようお願いいたします。

	30 年度	29 年度	28 年度	27 年度	26 年度	5 年度計
見学企業	145 社	139 社	155 社	132 社	138 社	709 社
見学人数	247 人	246 人	222 人	217 人	255 人	1,187 人

経営トップによる環境取組発表

- ※平成 25 年 2 月 14 日 一般社団法人三重県産業廃棄物協会主催の「産業廃棄物処理法説明会・環境対策事例発表会」で環境省講師とともに、「環境経営について」の演題で講演。
- ※平成 24 年 5 月 31 日 第 10 回日本環境経営大賞パネルディスカッションパネリストとして参加
- ※平成 22 年 3 月 5 日 三重県、四日市市、三重県産業支援センター主催「低炭素社会シンポジウム分科会・低炭素社会に向けての企業が目指すべき環境経営」パネリストとして参加

環境大臣表彰を受賞

平成 20 年 10 月 24 日、「平成 20 年循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰」（3R 活動優良企業）を受賞しました。

日本環境経営大賞「環境経営パール大賞」（環境経営部門の最優秀賞）を受賞

平成 24 年 5 月 31 日開催された第 10 回日本環境経営大賞表彰式において、
日本環境経営大賞：環境経営部門の最優秀賞「環境経営パール大賞」を受賞しました。

日本環境経営大賞は、全国の企業や団体等の優れた環境経営の取組を表彰することとして、2002 年度に三重県が創設し、「日本環境経営大賞表彰委員会（委員長 山本良一 東京大学名誉教授）」が表彰するものです。
第 10 回で終了となりましたが、以下の通り、全国企業等の環境取組が 10 年間にわたり展開され、その実績が評価されました。
※応募総数 1,279 件（うち県内 134 件・県外 1,145 件）
※受賞総数 148 件（うち県内 19 件・県外 129 件）



環境経営パール大賞受賞者	
14 団体（うち県内 4・県外 10）	
第 1 回	㈱滋賀銀行本店
第 2 回	アサヒビール㈱神奈川工場
第 3 回	シャープ㈱亀山工場
第 4 回	㈱ I N A X
第 5 回	㈱リコー
第 6 回	伊那食品工業㈱
第 7 回	トヨタ自動車㈱堤工場 速水林業
第 8 回	㈱滋賀銀行本店 国立大学法人 三重大学
第 9 回	日本興亜損害保険㈱ 千葉大学環境 I S O 事務局
第 10 回	前田建設工業㈱ エス・エヌ・ケー・テクノ㈱

私たちこそが、心通わせ信頼を醸成する最良の環境コミュニケーションツールでありたいと行動します。



北勢工場

統括本部

環境活動
団体への
加入

17
パートナーシップで
目標を達成しよう

- ◆・みえグリーン活動
ネットワーク会員
- ・グリーン購入
ネットワーク会員
- ◆・公益社団法人
三重県緑化推進協会
賛助会員

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための 17 の目標

1 貧困をなくそう

2 飢餓をゼロに

3 すべての人に健康と福祉を

4 質の高い教育をみんなに

5 ジェンダー平等を実現しよう

6 安全な水とトイレを世界中に

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

8 働きがいも経済成長も

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

10 人や国の不平等をなくそう

11 住み続けられるまちづくりを

12 つくる責任つかう責任

13 気候変動に具体的な対策を

14 海の豊かさを守ろう

15 陸の豊かさも守ろう

16 平和と公正をすべての人に

17 パートナーシップで目標を達成しよう

今版初めて、私たちの企業活動を SDG s にあてはめ開示しました。

17 の目標のうち 7 目標（4・7・8・12・13・15・17）を延 15 個それぞれの活動にあてはめました。SDG s を理解する段階ですが、今後とも貢献できる領域に目標を定めチャレンジしていきます。

11 第三者コメント



三重大学大学院工学研究科
分子素材工学専攻
学長補佐・教授

金子 聡

エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社の安全・環境経営レポート第15版を拝読させていただきました。

安全・環境経営レポート第5版から第14版までの第三者評価コメントは、その当時の三重大学大学院生物資源学研究科・共生環境学専攻・佐藤邦夫教授（現在、三重大学名誉教授で、現職：国際環境教育研究センター・客員教授）が務められ、本年度から三重大学大学院工学研究科・分子素材工学専攻・教授である小職（専門分野：環境化学、分析化学、電気化学）が務めることになりました。

まず、レポートの報告内容が、エスディージーズ（SDGs）の「世界を変えるための17の目標」と関連づけられており、2030年の長期的な会社の姿を考慮した環境経営に取り組んでいることが窺えます。昨年の本安全・環境レポートに加えられた「ワーク・ライフ・バランスの定着」に加えて、今後2030年に向けた環境経営の取り組みの向上がますます期待されるところです。

一方、平成12年に会社を設立した当時と現在を比較すると、従業員数（30名から63名に）、売り上げ高（765百万円から1,527百万円に）とも、ほぼ2倍になり、自己資本比率も26.7%から66.6%に増えており、環境経営に配慮しつつ、着実に会社が成長していることも特筆すべきであると思います。

事業内容に関しては、太平洋セメント（株）藤原工場との再生処理連携システムをきちんと構築し、北勢工場へ搬入された廃棄物約52,000トン、セメント焼成用補助燃料等に再生処理・中間処理し、約99.5%を再資源化することに成功しています。この再資源化効率は、平成24年度では98.0%でありましたが、今年度は過去最大の99.5%を達成しています。この再資源化は、平成21年度から30年度の10年間で、エネルギー生成量として石炭（一般炭）約22万トンに相当し、二酸化炭素排出抑制量として約40万トンに相当し、脱炭素社会に向けて大きな社会的貢献を果たしていると言えます。

さらに、再資源化廃棄物の収集運搬目標を掲げ、平成28年度から30年度までの第3次計画では、目標値95%に対して、平成28年度96.3%、平成29年度97.5%、平成30年度97.4%の実績であり、汚泥等の容易に再資源化が実施し難い廃棄物に関しても、関連会社と連携・協働し、積極的に再資源化を試みていることが高く評価できると考えられます。

また、第6章の「北勢工場の環境保全」では、臭気対策が非常に継続的かつ確実に実施されていることが述べられています。平成28年度には、社会経済活動の変化等に伴う新たなクレーム等の対外的な問題が生じておりますが、改善処置を講じた結果、平成29年度と平成30年度には、このようなクレーム等の問題は発生していません。したがって、今後もこのような事例が発生しないように、さらに真摯な対策を取り続け、臭気が全く出ない（臭気指数で感知しないレベル）理想的な運転状況の将来的な確立を期待します。

第8章の「環境マネジメントシステムと専門組織の両輪による安全・環境保全取組」では、安全・環境保全に係る教育・訓練等は、ISO環境マネジメントシステムの中に組み込んで計画的に実施していると記載されており、会社全体としての安全・環境に対する意識の高さを感じることができます。経営トップと安全管理室による全職場の安全・環境パトロールは、非常に有効な取り組みとして、将来にわたって継続されることを希望します。

以上述べてきましたように、安全・環境経営に十分に配慮しつつ、企業経営も着実に実施されている、すなわち、環境と経営を対立する軸ではなく、同じ方向を向いたベクトルと捉え、成功裏に収められていると言えます。今後の10年間も、この理念を忘れることなく、安全・環境経営レポートを内部・外部に公表・発表し、社会的責任を十分に果たされていることを切に願ってやみません。

統括本部

☎510-0814 三重県四日市市清水町4番45号
Tel 059-332-3711 Fax 059-332-2132

URL: <http://www.snk-techno.co.jp>

E-mail: eigyoubu@snk-techno.co.jp



北勢工場

☎511-0417 三重県いなべ市北勢町瀬木松之下633番地
Tel 0594-72-7850 Fax 0594-72-7851

